

# かわらばん

2023.1.1  
Vol1

この「ミッション2030 かわらばん」は、「ミッション2030」に関するさまざまなニュースをお届けする情報誌です。できるだけわかりやすく、気軽に、そして楽しく読めるような誌面作りを心がけて参ります。

## 「ミッション2030」の新しいチームができました

「ミッション2030」の新しい組織「ミッション2030プロジェクトチーム」が、2022年9月、正式に発足しました。

「最近、ミッション2030の話をお聞かないけれど、どうなったの?」と心配されていた方々もいらつしやると思っています。関心をもっていたに、チームメンバー一同、心から感謝していません。準備がかりましたが、無事にスタートを切ることができました。

これからさまざまな取り組みを通して、皆さまとともに「ミッション2030」についての理解を深めながら、私たち信徒が神さまの望みになつた生き方をしていけるように、そしてイグナチオ神父が愛と慈しみにあふれる生き生きとした共同体になつていけるように、取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。

## 祈りと分かち合いの集いを開催します

「ミッション2030の前文に示されている精神を伝え続けていきたい」と、プロジェクトチームでは考えました。それは私たちがキリスト者として目指すべき姿であり、また、神さまが望まれる世界を作っていくためにも、すべての人に開かれた教会になつていくことが必要だと考えたからです。

そこで、私たち一人ひとりが祈りの内に、自身の信仰生活を振り返り、教会の現状を見つめ直す機会を作ってみることにしました。

題して、【祈り・つたえ・つながり・ともに歩む】小さな私たちの分かち合い」という集いです。祈り、黙想し、その黙想の恵みと実りを参加者で分かち合い、これからの教会生活や各々の信仰生活に生かして

ていければと思います。

第1回のテーマは「あなたにとって教会は『わが家』になつていますか」です。皆さんにとって「わが家」とはどんなイメージですか。安心できて、くつろぐことができ、あたたかいところ。素の自分に戻れる場所。大切な家族が集まるところ。「おいしいご飯が待っているところ」「どんなに楽しい旅でも、家に辿り着くとほっとする」なんていう方もいらつしやることでしょうか。

私たちの教会は、そのような場所になつているでしょうか。誰もが帰りたくなるような、あたたかな場所でしょうか。もしそうでないのなら、どうすれば皆が「わが家」と感じられる場所にすることができのでしょうか。そうしたことを一緒に考えていきましょう。

開催日：2023年2月12日(日)  
時間：13時～15時  
場所：ヨセフホール&Zoom  
テーマ：あなたにとって教会は「わが家」になつていますか  
プログラム①オチョア神父の講話  
②祈りと黙想  
③小グループの分かち合い  
④分かち合いの報告  
\*詳細はポスター、チラシ、教会報マジスなどを通して改めてお知らせいたします。

## 第1回マ あなたにとって教会は「わが家」になつていますか

## オチョア神父さまからメッセージ

コロナ禍に入つて約3年、教会に来られなくなつていく人がたくさんいます。どのようになつたらいいのか、「里帰り・教会帰り」が叶うでしょうか。

また、司祭の高齢化も大きな課題です。私は84歳になりました。ガラルダ神父さまは91歳、シルゴ神父さまは85歳。司祭の高齢化は世界的な流れでもあります。

信徒の高齢化も進んでいきます。健康でゆとりもあるけれど、子どもたちが巣立ち、孤独感を抱いている——という方も少なくないでしょう。そういう方たちに教会は何ができるでしょうか。当教会は、社会の模範になる必要があります。

教会そして社会が抱える課題に対して、皆で工夫して取り組んでいきましょう。バチカン公会議で示されたように、教会は時代のしるしを読み、時代に合わせて柔軟に対応することが求められています。



# 「MISSION 2030」ってなに？

「MISSION 2030」は、私たち信徒が、そして聖イグナチオ教会が何を大切にし、どのような目標に向かって歩んでいけばいいかという方向性を示した指針です。

「MISSION 2030 前文」をご存じでしょうか。教会報マジスに掲載されていることが多いので、目にされた方も多いいと思いますが、ここであらためてご紹介します。

「私たち聖イグナチオ教会は、祈りにもとづく使徒的共同体を生きていきます。現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、環境破壊など、未来に希望を見いだしにくい反福音的なものに脅かされています。」

それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、いつくしみの扉を開いていきます。

私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、貧しい人や弱い人の声を聴き、皆でともに手をたずさえて（日本人も外国人も、老いも若きも）、福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

これが、聖イグナチオ教会と私たち信徒が目指している方向性です。あらためてゆつくりと読み、深く味わってみてください。

MISSION 2030の取り組みが始ま

ったのは、おもに「司祭・修道者の減少」という危機感が発端でした。

主聖堂が献堂された頃（1999年）と比べると、司祭・修道者の数は半減しています。さらに2030年頃には、主任司祭と助任司祭一人という体制になるかもしれないという予測もなされています。

幸いにも今はまだ、大勢のすばらしい神父さまやブラザー、シスターがいらっしゃり、私たちとともに信仰の道を歩んでくださっています。ご高齢の方が多くなり、ご健康が案じられます。

このような危機感を抱いたこともきっかけとなって、2015年度に大勢の信徒が参加してワークショップやアンケートを行い、「当教会の良い点、欠けている点」「どのような信仰の道を歩んでいけばよいか」などを分かち合いました。そうしてできたのが、「MISSION 2030」という指針です。



MISSION 2030に取り組みはじめてから丸5年が経とうとしています。今年度は主任司祭にオチョア神父さまをお迎えするなど、いろいろな意味で再スタートの年となりました。私たち信徒がより一層、MISSION 2030に親しむことができますように。一人ひとりがこの方向性に向かって歩んでいきますように。皆で力を合わせて取り組んでいけたらと思います。



ひとりでも多くの方がイエス・キリストと出会い、その愛に触れるには、どうすればいいのか。そのために、皆さんと心と力を合わせて、ともに祈り、考え、そして歩んでいければと願っています。

（岩崎 準）



この取り組みの始めから関わり続けている教会を盛り上げるのを目的とするのではなく、変化する環境のなかで、この共同体が教会の本質を実現してゆくために識別し行動し続けることを使命として、歩んでゆきたいと思えます。

（内田 正）



2030年に予測される問題とは、少子高齢化、日本を支える労働者不足、世界の平均気温の上昇、豪雨などの自然災害のリスクの高まりです。これに立ち向かう私たちは、出産と子育て家庭支援、高齢者の医療福祉支援、外国人労働者との共働社会の促進、脱炭素社会の具現化などが求められます。夫婦と家族の愛、外国人とのパートナーシップ、誰ひとり取り残さないインクルーシブな生き方、自然への畏敬と消費社会の見直し、キリスト者の取り組みにも求められています。希望をもつてともにつながって、この道を主とともに歩みましょう。

（小宮山延子）

## ◎MISSION 2030 プロジェクトチームからのごあいさつ◎ PART 1

MISSION 2030 はこんなメンバーで担当しています。どうぞよろしくお願ひします。



受洗50年を迎えます。教会共同体としての信仰の意味や重要性に目覚めたのはこの十年位です。ヘンリ・ナウエン著『今日のパン、あしたの糧』に出会い、私の信仰が変わりました。皆さまの祈りに支えられていると実感する日々です。

（齋藤順子）



当教会に在籍して早36年。家族全員が通う教会はまさに「わが家」。MISSION 2030の精神を若い世代にもぜひ受け継いでほしい、大きな「わが家」を作りたい、と願いつつ取り組んで参りたいと思ひます。

（マリイ竹内陽子）



一人ひとりが個を大事にしつつも、麹町教会という船に乗り、分かち合いを大事にし、日々を神さまの恵みに感謝できる余裕を持ち、新しい信徒を喜びを持って受け入れられるような人になりたいです。

（M.A.F.）



教会に来ると安心できる、元氣になれる、勇気や励ましをもらえる——そんな教会であったら良いなと思っています。だれもが笑顔になれる、あたたかみ思いやりに満ちた「わが家」を、皆で一緒に作っていきましょう。

（☆ほしのかずこ）

### 【次号PART2】

2022年は戦争の脅威を身近に感じる年となってしまいました。世界各地で戦争や紛争に巻き込まれ、恐怖と苦しみのなかにいる方たちに、主がいつも寄り添って支えてくださいますように。2023年は明るいニュースが増えますように。そして皆さまの上に、主の恵みといつくしみがたくさん降り注ぎますように。